

エスニックバックグラウンドを持つコミュニティを対象とした 生活・行動に関する考察

－神奈川県県央地域を中心とした在日南米人^{注1}を事例として－

鍛 佳代子*1 秋元 清太郎*2

A Study of Life and Behavioral Activities of Ethnic Communities

－ Examples of Japanese-South American in Central Part of Kanagawa －

Kayoko KITAI *1 Seitaro AKIMOTO *2

We study life and behavioral activities of ethnic communities in Japan and describe the current state of their activities and make the database developing a recent tendency to increase the number of their population every year.

We conduct a survey in the form of a questionnaire for the above reason and refer to the results by the way to South Americans living in central part of Kanagawa as follow:

1. Personal Data: nationality, Age, sexuality, address, residential and employment environment, etc. and 2. Life and Behavioral activities data: action pattern of weekday and weekend, shopping behavior, etc.

1. はじめに

欧州においては、1993年にEU発足以降、日本においては、1990年の出入国管理及び難民認定法の改正以降、以前とは異なった外国人の流入傾向が報告され、その分析がなされている。^{1)~5)}

しかし、日本においては、人口や経済的背景を示すデータはあるが、彼等の日常的な行動を示すデータがほとんどないのが現状である。^{4)~7)} 今後、増加すると考えられる在日外国人にも対応した社会基盤や都市整備において、彼等の生活や行動を含めた基礎データが必要になると考えられる。

本研究では、このような基礎データの構築のために、まずは、神奈川県県央地域に住む在日南米人を対象として、来店客個人の基本情報－年齢・性別・国籍、居住地、その居住環境、就労など－と日常行動に関する内容－平日・休日の行動パターン、普段買い物に行くところ等－に関する対面式アンケートを実施し、日常行動

を含めた在日南米人の生活・行動に関する現状を示すことを目的としている。

2. アンケート調査対象と方法

図 2.1 の神奈川県近郊の在日ブラジル人・ペルー人

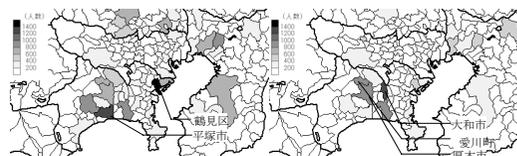


図 2.1 人口分布⁸⁾ (2004年 左:ブラジル人 右:ペルー人)

表 2.1 人口統計⁸⁾ (2004年 入国管理局)

2004年	ブラジル人人口	ペルー人人口	(ブラジル人人口/総人口)*100%	(ペルー人人口/総人口)*100%	総人口
愛川町	809	832	1.89	1.94	42,868
厚木市	692	885	0.31	0.40	221,471
平塚市	1,248	245	0.49	0.10	256,236

*1 東京工芸大学工学部建築学科講師

*2 馬淵建設株式会社

2006年10月4日受理

人口分布を見ると、神奈川県大和市や厚木市、愛川町に多く居住していることがわかる。また、表 2.1 に対象地域とした、平塚市、厚木市、愛川町の在日ブラジル人・ペルー人の人口と日本人に対する割合を示した。

対象地区内にある南米系商品^{注2}を扱う3店舗:

- ・ サポールラティエノ (Sab:愛川町)
- ・ ブラジルフッズ (Bra:愛川町)
- ・ リオスーパー (Rio:平塚市)

において、来店客を対象に対面式のアンケートを行った(表 2.2,図 2.2)。

「3. 居住者像に関する考察」において、来店客個人の基本情報の整理を行い、対象地域内の南米系店舗を利用する人物像を示し、「4. 生活・行動圏に関する考察」においては、休日の過ごし方に関するデータの整理と回答者の居住地とアンケート回答内にある日常的に利用する店舗の住所を調べ、その地点をベクトルで結び、行動分布図を作成し、これを元に、対象地域内の南米系店舗を利用者の日常

行動の考察を行った。

3. 居住者に関する考察

アンケートによる基本情報の各項目と、アンケート者全体・各地域に対して、表 3.1 に最頻値を、図 3.1~図 3.3 に割合グラフとして示した。

各基本情報の項目について、以降に傾向をまとめる。

- 1) **国籍:**ブラジル 64 人、ペルー 24 人、その他 6 人、日本 11 人であり、地域別に見ると、愛川町はペルー人が多い。
- 2) **性別:**全体の男女比は、男:女=66:39。愛川町は男性比が高く、他はほぼ同等の比率。
- 3) **年齢:**全体の平均値、及び、最頻値はともに 34 歳である。愛川町:平均値 35 歳・最頻値 19 歳、厚木市:平均値 32 歳・最頻値 18 歳であり、高校を卒業後の来日者も多いことを示している。
- 4) **結婚:**全体で見ると、結婚 44%、未婚 49%、その他は 7%である。国籍別では、ペルー人の既婚率(70%)が高い。地域別では、平塚市の既婚率(40%)が他地域よりも低い。
- 5) **来日目的:**全体の 92%が「労働目的」である。6%の「その他」の中では、「両親に連れてこられた」が最も多い。
- 6) **来日年:**全体で見ると、平均値 1995 年、最頻値 1990 年である。地域別では、平塚市:平均値 1998 年、最頻値 2005 年と、近年の入国者が多い。他の地域も 2004 年、2005 年の値が高い傾向が見られた。
- 7) **居住地数:**居住地数は平均値 2.55、最頻値 2 である。居住地回数が増えると、最後の居住地に長く住む傾向が見られた。
- 8) **住居タイプ:**「賃貸住宅」が全体の 54%、次いで「持ち家」が 10%である。「公」の賃貸住宅の割合は、6%であり、「公」よりも、「民」の賃貸住宅に居住する傾向がみられた。
- 9) **部屋タイプ:**部屋タイプは順に、「2DK」が 29%、「3DK」11%、「1K」11%である。
- 10) **居住人数:**居住人数の最頻値が 2 人、次いで 1 人。2 人の場合は、主に家族と同居している。主

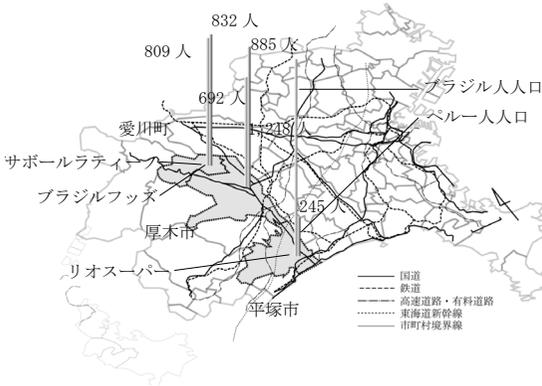


図 2.2 調査地域と人口分布 (在日ブラジル人・ペルー人)

表 2.2 調査実施店舗概要

店名	場所	店舗内容
リオスーパー(Rio)	平塚市東中原	レストラン、食品、雑貨、電化製品、衣服、雑誌
サポールラティエノ(Sab)	愛川町中津	レストラン、食品、雑貨、雑誌
ブラジルフッズ(Bra)	愛川町中津	レストラン、食品、雑貨、雑誌

表 2.3 調査実施概要^{注3}

店舗	日付	時間	回答数
Rio	2005/09/04/sun	15:00-20:00	11
Rio	2005/09/11/sun	14:00-17:00	3
Sab	2005/10/22/sat	12:40-20:30	28
Sab	2005/10/27/thu	17:30-21:00	9
Sab	2005/10/28/fri	12:30-18:30	10
Rio	2005/11/06/sun	17:00-21:00	8
Bra	2005/11/10/thu	17:00-21:00	4
Bra	2005/11/11/fri	17:00-21:00	4
Rio	2005/11/17/thu	16:50-21:00	9
Rio	2005/11/18/fri	17:00-21:00	4
Rio	2005/11/24/thu	17:00-21:00	7
Rio	2005/11/25/fri	17:30-21:00	2
Rio	2005/11/30/wed	17:30-21:15	6
計			105

表 3.1 アンケート集計結果 (最頻値)

		全体	神奈川県愛甲郡愛川町	神奈川県厚木市	神奈川県平塚市
基本情報	人数	105人	27人	15人	27人
	国籍	ブラジル	ペルー	ブラジル	ブラジル
	性別	男	男	男	男
	年齢	34	19	18	34
	結婚	未婚	既婚	既婚	既婚
	来日目的	労働	労働	労働	労働
	来日年(年)	1990	1989	1990	2005
居住	居住地数(カ所)	2	2	1	1
	居住決定要因	仕事場あるいは学校に近いから	仕事場あるいは学校に近いから	働いている会社を選んだから	働いている会社を選んだから
	住居タイプ	賃貸住宅	賃貸住宅	賃貸住宅	賃貸住宅
	部屋タイプ	2DK	2DK	2DK・3LDK	2DK
	居住人数[家族]	2	3[0]	2[0]	2[0]
	家賃	6~7万円	5~6万円, 6~7万円	6~7万円	4~5万円
就労	職数	1	3	2	1
	職種	工員	工員	工員	工員
	雇用タイプ	契約社員	契約社員	契約社員	契約社員
	年収	300~400万円	200~300万円	300~400万円	300~400万円
	通勤手段	自転車	自転車	自動車	自転車
	所要時間	住まいから5~15分	住まいから5~15分	住まいから5~15分	住まいから5~15分
休日の過ごし方	どこへ行くか	店舗	店舗	レストラン	店舗
	交通手段	自動車	自動車	自動車	自転車
	誰と過ごすか	家族	家族	家族	友人
	徒歩でどこへ行くか	自宅	自宅	店舗・自宅	自宅
	自転車で行くか	店舗	レストラン	店舗	店舗
	自動車で行くか	店舗	店舗	レストラン	レストラン
	電車で行くか	店舗	店舗・教会	店舗・レストラン	店舗
	バスで行くか	店舗	店舗	レストラン・公園	店舗

に家族と同居している。居住人数を3人~8人と回答したものは、50%前後あった。

- 11) **家賃**: 家賃の最頻値は6~7万円である。1万円未満~10万円以上まで、他の項目に比べるとバリエーションが多い。
- 12) **職数**: 平均値は2.35回、最頻値は1回である。地域別では、愛川町、厚木市、平塚市の平均値は2.16~2.62、最頻値は愛川町3、厚木市2、平塚市1である。職数は、滞在年と関係が深い。
- 13) **職種**: 主たる職種は、工員である。勤め先として、男性は自動車や機械の部品工場、女性は弁当製造工場や、ゲーム機の制作工場などがみられた。
- 14) **雇用タイプ**: 主たる雇用タイプは、契約社員であり、次いで、正社員、パートタイムである。全体の5%が自営業(従業員がいらない)がみられた。
- 15) **年収**: 最頻値は300~400万円である。愛川町: 男性・女性共に200~300万円。その他では、男性300~400万円/女性100~200万円と地域・男女格差が見られた。
- 16) **通勤手段**: 最頻値は自転車である。バス、電車などの公共交通機関を利用するケースは12%とあまりみられない。厚木市では、自動車の通勤

が主となっていた。

- 17) **通勤所用時間**: 最頻値は、「住まいから5-15分」である。また、「11.通勤手段」より、通勤方法が自転車者であると考ええると、5km圏内に職場があると推測でき、職住近接傾向がみられた。

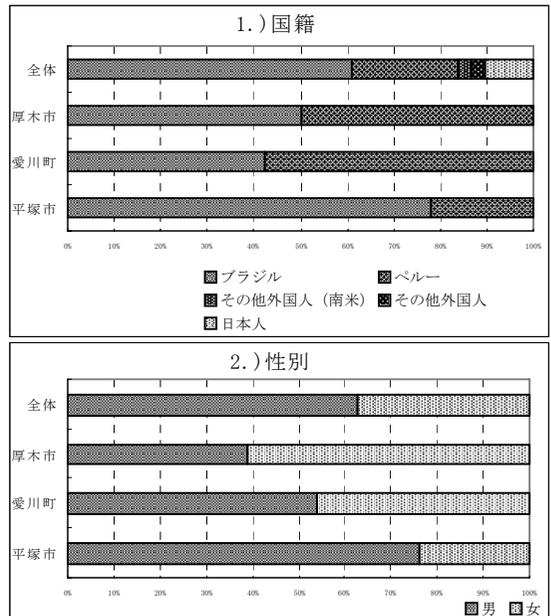


図 3.1 アンケート集計結果 (基本情報・項目別: その1)

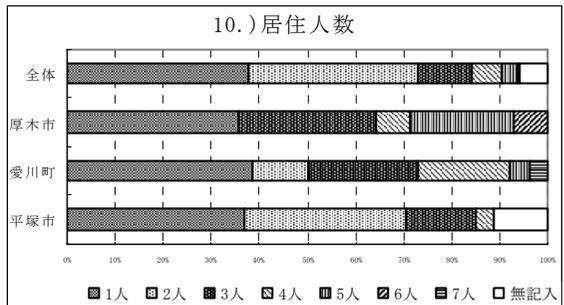
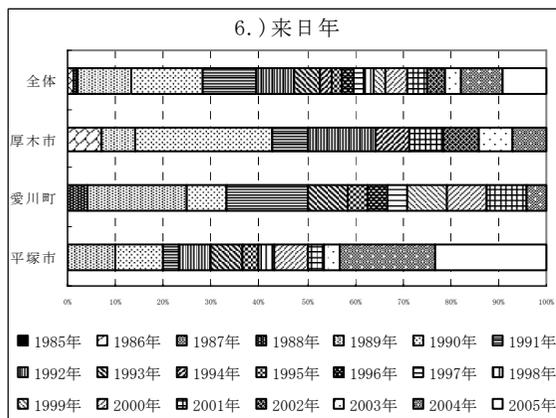
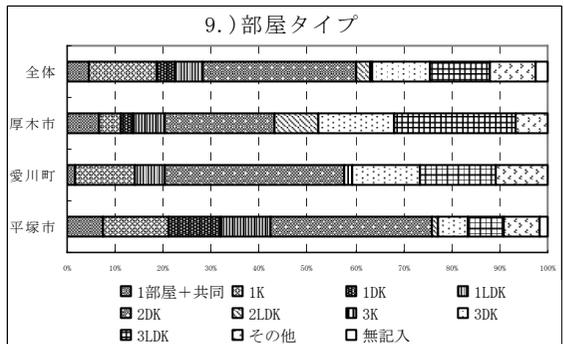
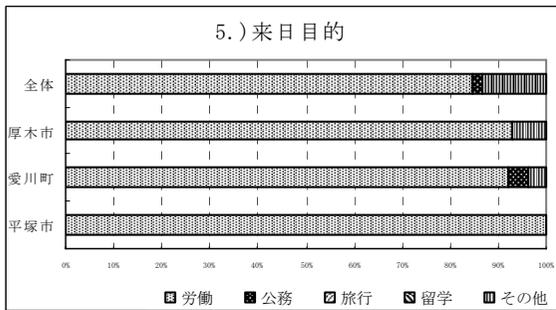
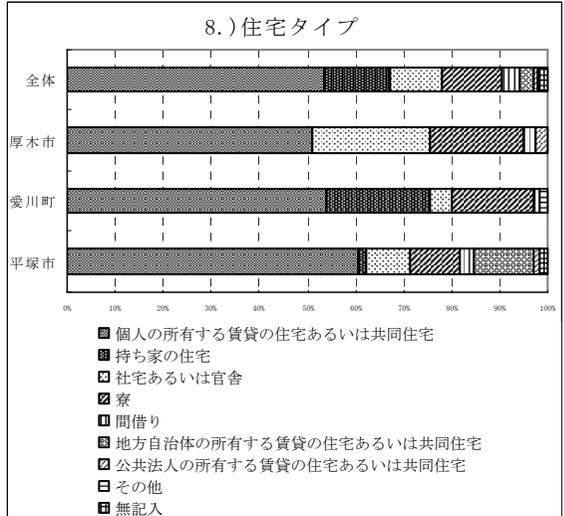
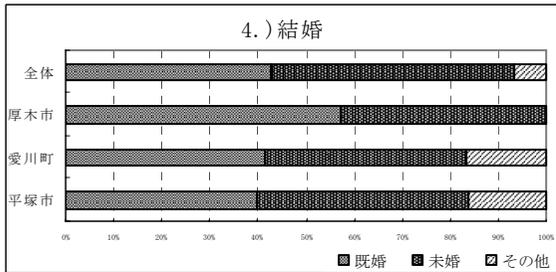
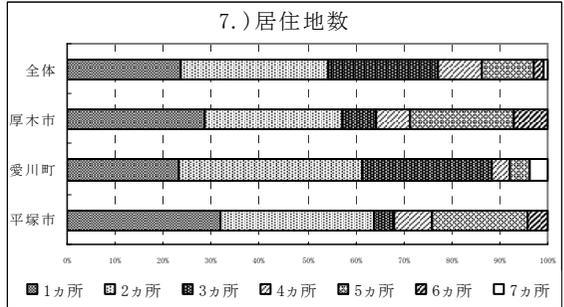
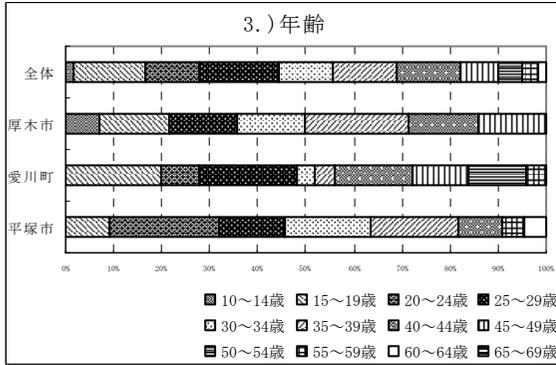
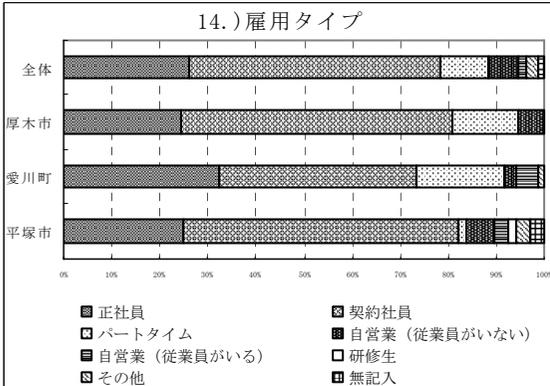
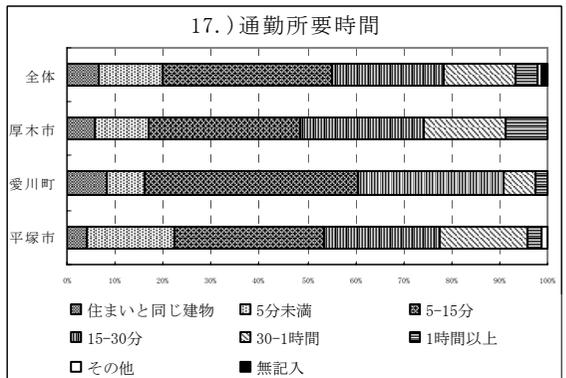
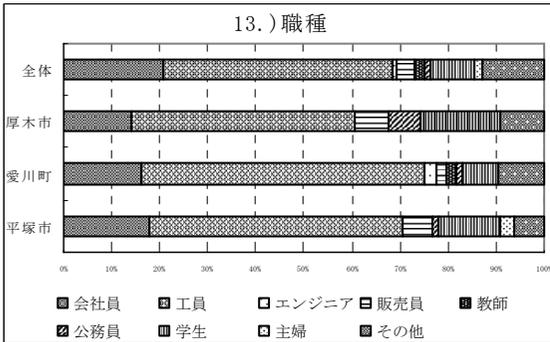
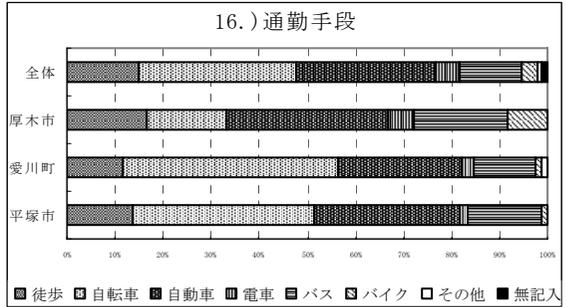
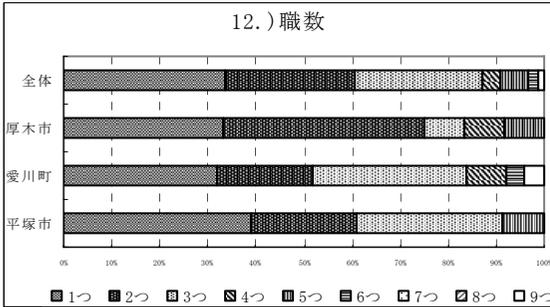
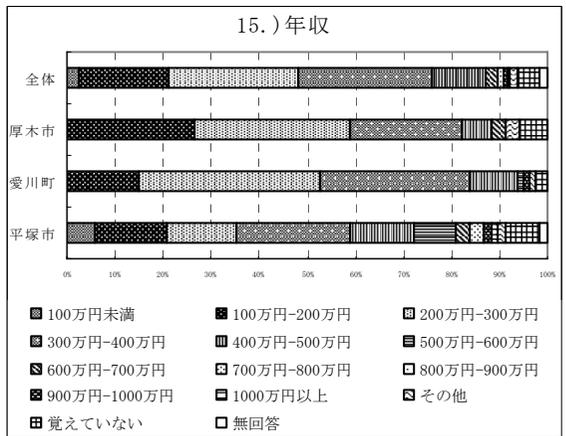
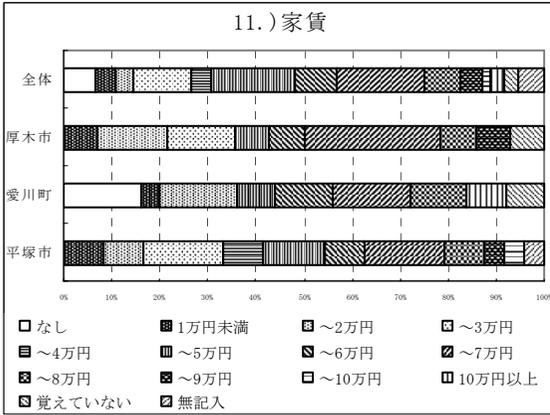


図 3.2 アンケート集計結果 (基本情報・項目別: その2)



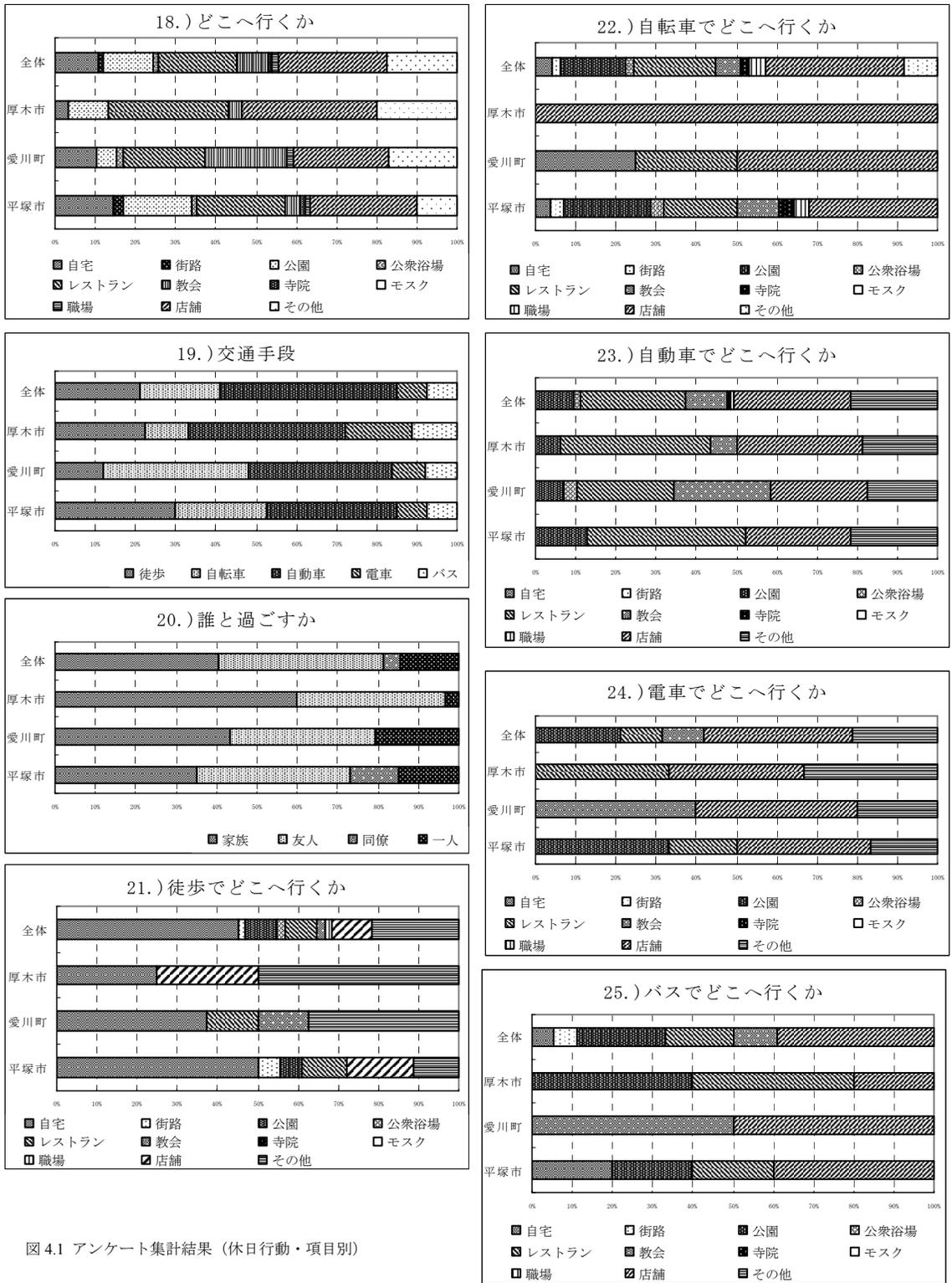
4. 生活・行動圏に関する考察

生活・行動パターンに関する項目を、「4.1.休日の行動に関する考察」と「4.2.日常の行動に関する考察」で示す。

4.1 休日行動に関する考察

この項目に関するアンケート結果は、各項目と、アンケート者全体・各地域に対して、表 3.1に最頻値を、図 4.1に割合グラフを示した。

図 3.3 アンケート集計結果 (基本情報・項目別：その3)



- 1) **相手**: 全体の 80%は、家族・友人と過ごす。
- 2) **場所**: 全体の 62%がレストランや店舗と回答。レストランや店舗がコミュニケーションの場(拠点)となっていると考えられる。また、公園や教会へ行くという回答もみられた。
- 3) **交通手段**: 自動車や自転車が主な交通手段である。「3. 16.通勤手段」の最頻値は「自転車」であったのに対し、休日の交通手段は自動車である。平日は、自転車で自宅から5~15分の職場に通勤するのに対して、休日は自動車を利用し、家族で、さらに広い行動圏域を持って行動姿が見られる。

4.2 日常行動に関する考察

「2. アンケート調査対象と方法」の中で示した行動分布図(図 4.2, 図 4.5)を作成し、これを元に、「4.2.1. 居住者側から見る生活・行動圏域」と「4.2.3. 利用店舗から見る居住者の生活・行動圏域」の考察を行った。

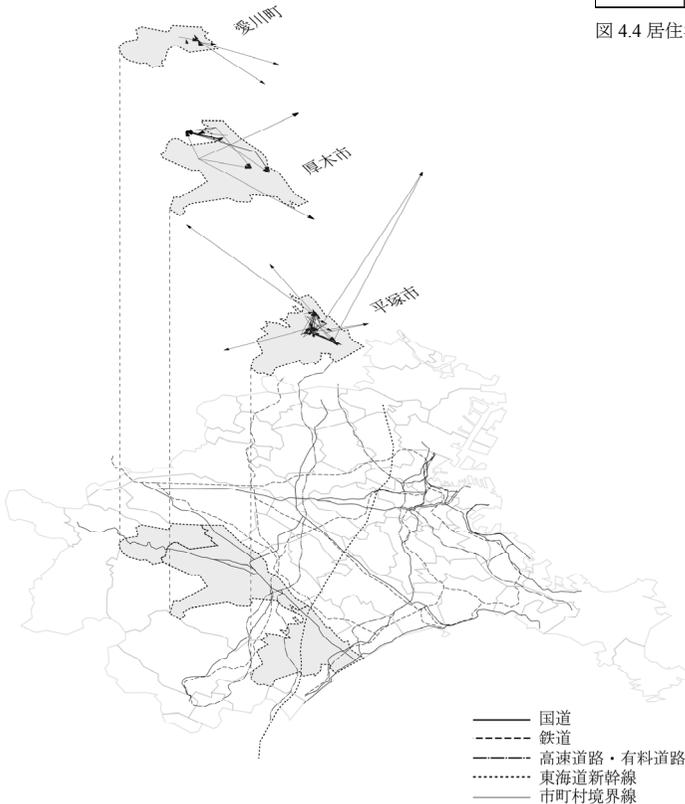


図 4.2 行動分布図 (居住地拠点)

4.2.1 居住者側から見る生活・行動圏域

表 4.1 集中度・分散度の算出方法

居住者からみるベクトル	対象市町内への「集中度」	$(A+B)/D*100\%$
	対象市町外への「分散度」	$C/D*100\%$

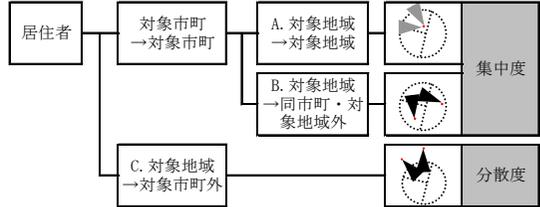


図 4.3 居住者側から見る行動パターンモデル

居住者からみる生活・行動域モデル					
有拠点型			無拠点型		
一極拠点型	複数拠点型		無拠点型		
愛川町	平塚市		厚木市		
南米系商店	その他店舗	南米系商店	その他店舗	南米系商店	その他店舗

図 4.4 居住者側から見た生活・行動圏域モデル

図 4.2 より、特定の場所に集中する傾向と比較的長距離では分散する傾向が見られる。そこで、図 4.2 内の各ベクトルを、「A.居住地→居住地同一地域名行動対象地域(以下、対象地域)」、「B. 居住地→居住地同一市内・同一地域外行動対象地域(以下、同市対象地域外)」、「C. 居住地→教授内同一内市町外行動対象地域(以下、対象市町外)」に分類した。総ベクトル数 D (=A+B+C)とし、D に対する「対象市町内のベクトル(A+B)」の割合を「集中度」・「対象市町外へのベクトル(C)」の割合を「分散度」として算出し、傾向をみた。

(表 4.1)

それに伴う行動パターンモデルを(図 4.3)に示した。

4.2.2 居住者側から見る生活・行動圏域の考察
(集中度・分散度)

図 4.4 より、在日南米人の生活拠点の持ち方に、「有拠点型」(愛川町、平塚市)と「無拠点型」(厚木市)、「有拠点型」は「一極型」(愛川町)、「複数型」(平塚市)に分類される。

表 4.2 集中度・分散度

	市町名	地域名	居住地→店舗 ベクトル				集中度・分散度			
			対象地域 →対象地域	対象地域 →同市町 ・対象地域外	対象地域 →対象市町外	総数	①対象地域 →対象地域	②対象地域 →対象市町 ・対象地域外	③対象市町内 への集中度	④分散度 →対象地域 →対象市町外
			A	B	C	D=A+B+C	A/D*100%	B/D*100%	(A+B)/D*100%	C/D*100%
I 店舗	愛川町	中津	40	4	4	48	83.3	8.3	91.7	8.3
		角田	2	4	0	6	33.3	66.7	100.0	0.0
	厚木市	中町	0	0	0	0				
		林	0	0	0	0				
		栄町	0	0	0	0				
		下川入	1	1	0	2	50.0	50.0	100.0	0.0
		上依知	0	1	1	2	0.0	50.0	50.0	50.0
		下依知	0	3	0	3	0.0	100.0	100.0	0.0
		下荻野	0	0	2	2	0.0	0.0	0.0	100.0
	平塚市	田村	0	3	2	5	0.0	60.0	60.0	40.0
		東中原	18	7	1	26	69.2	26.9	96.2	3.8
		四之宮	0	3	1	4	0.0	75.0	75.0	25.0
		東真土	0	3	1	4	0.0	75.0	75.0	25.0
		代官町	0	0	0	0				
		横内	0	5	0	5	0.0	100.0	100.0	0.0
		豊田本郷	0	0	0	0				
		東八幡	0	0	0	0				
		宮松町	0	0	0	0				
		紅谷町	0	0	0	0				
		中原	0	7	1	8	0.0	87.5	87.5	12.5
西真土	0	5	1	6	0.0	83.3	83.3	16.7		
真土	0	1	0	1	0.0	100.0	100.0	0.0		
豊田平等寺	0	5	0	5	0.0	100.0	100.0	0.0		
II 南米系店舗	愛川町	中津	20	0	0	20	100.00	0.00	100.00	0.00
		角田	0	2	0	2	0.00	100.00	100.00	0.00
	厚木市	中町	0	0	0	0				
		林	0	0	0	0				
		栄町	0	0	0	0				
		下川入	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
		上依知	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
		下依知	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
		下荻野	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
	平塚市	田村	0	2	1	3	0.00	66.67	66.67	33.33
		東中原	11	5	0	16	68.75	31.25	100.00	0.00
		四之宮	0	2	0	2	0.00	0.00	0.00	0.00
		東真土	0	2	0	2	0.00	0.00	0.00	0.00
		代官町	0	0	0	0				
		横内	0	1	0	1	0.00	0.00	0.00	0.00
		豊田本郷	0	0	0	0				
		東八幡	0	0	0	0				
		宮松町	0	0	0	0				
		紅谷町	0	0	0	0				
		中原	0	3	0	3	0.00	0.00	0.00	0.00
西真土	0	1	0	1	0.00	0.00	0.00	0.00		
真土	0	1	0	1	0.00	100.00	100.00	0.00		
豊田平等寺	0	1	0	1	0.00	0.00	0.00	0.00		
III その他店舗	愛川町	中津	20	4	4	28	71.43	14.29	85.71	14.29
		角田	2	2	0	4	50.00	50.00	100.00	0.00
	厚木市	中町	0	0	0	0				
		林	0	0	0	0				
		栄町	0	0	0	0				
		下川入	1	1	0	2	50.00	50.00	100.00	0.00
		上依知	0	1	1	2	0.00	50.00	50.00	50.00
		下依知	0	3	0	3	0.00	100.00	100.00	0.00
		下荻野	0	0	2	2	0.00	0.00	0.00	100.00
	平塚市	田村	0	1	1	2	0.00	50.00	50.00	50.00
		東中原	8	7	1	16	50.00	43.75	93.75	6.25
		四之宮	0	1	1	2	0.00	50.00	50.00	50.00
		東真土	0	1	1	2	0.00	50.00	50.00	50.00
		代官町	0	0	0	0				
		横内	0	4	0	4	0.00	100.00	100.00	0.00
		豊田本郷	0	0	0	0				
		東八幡	0	0	0	0				
		宮松町	0	0	0	0				
		紅谷町	0	0	0	0				
		中原	0	4	0	4	0.00	100.00	100.00	0.00
西真土	0	4	1	5	0.00	80.00	80.00	20.00		
豊田平等寺	0	4	0	4	0.00	100.00	100.00	0.00		

i) 愛川町:『一極拠点型』

表 4.2 ③より愛川町内の集中度は中津地区へ約 92%、角田地区 100%と高い。愛川町外へは分散度は中津地区約 8%、角田地区 0%である。中津地区には内陸工業団地を有し、南米系2店舗(サポールラティエノ(以下、Sab))・ブラジルフツツ(以下、Bra))を拠点として

日常行動をしていることがわかる。愛川町外への公共交通機関は神奈川中央交通のバスのみであり、町外へのアクセスが、同一町内への集中を生み出す結果となっていることが見て取れる。

ii) 厚木市:『無拠点型』

飲食店は本厚木駅前にあるが、生活用品店舗が同市内にはなく、今回のアンケートでは、サンプル数が9であった。その為、生活用品を求めて、南米系店舗のある市外へ向かう行動と南米系商品以外の購入は市内又は市外の店舗を利用する様子が表 4.2

③より、見て取れる。その為、分散傾向となる。「3. 16 通勤手段」で自動車通勤が主である厚木市内の主要道路は、国道246号線・129号線・412号線、また、東名高速道路のインターチェンジを有している。

iii) 平塚市:『複数拠点型』

表4.2 店舗全体③、④より、平塚市内の集中度の最高値は東中原区で約96%であり、今回アンケートを行った南米系店舗のリオスーパー(以下、Rio)が立地する。最低値は田村地区で約60%である。南米系店舗がある地区では、南米系店舗の集中度が高く、南米系店舗ない地区では、その他店舗の集中度が高い。平塚市では、市外にはあまり出ず、市内の拠点店舗を中心として行動している様子が見られる。

表 4.3 Local Region 度 (LR 度)・Global 度 (G 度)

店舗からみるベクトル	対象市町内からのベクトルの割合 「Local Region度」:「LR度」	$(A+B) / (A+B+C) * 100\%$
	対象市町外からのベクトルの割合 「Global度」:「G度」	$C / (A+B+C) * 100\%$

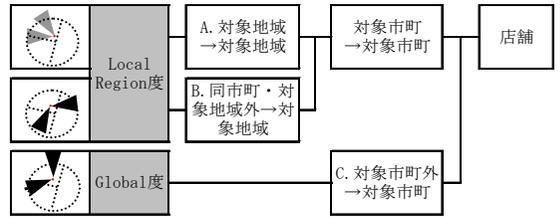


図 4.6 利用店舗パターンモデル

4.2.3 利用店舗から見る生活・行動圏域

取扱う商品により店舗を分類し、それぞれ店舗に向かう居住者の行動分布図を作成した。(図 4.5)

全ベクトルに対する対象町市内間のベクトルの割合を Local Region 度(以下、LR 度)・対象町市外のベクトルに対する割合を Global 度(以下、G 度)とし、図 4.6 に示すような利用店舗パターンを作成し、各地域を分類した。

4.2.4 利用店舗から見る生活・行動圏域の考察

(Local Region 度・Global 度)

i) 愛川町:『G+LR 型』

愛川町の全店舗の LR 度は、表 4.4 ①より、中津地区約 60%、角田地区 100%と高く、G 度は中津地区約 40%、角田地区 0%と低い。つまり、愛川町内の店舗は同一町内からのアクセスが主であり、地域に密着している傾向がみられる。その要因として、前項で示した通り、愛川町内の公共交通機関は神奈川中央交通のバスのみであることや、工業団地があることがこの傾向を示唆しているものと考えられる。

ii) 厚木市:『LR 型』

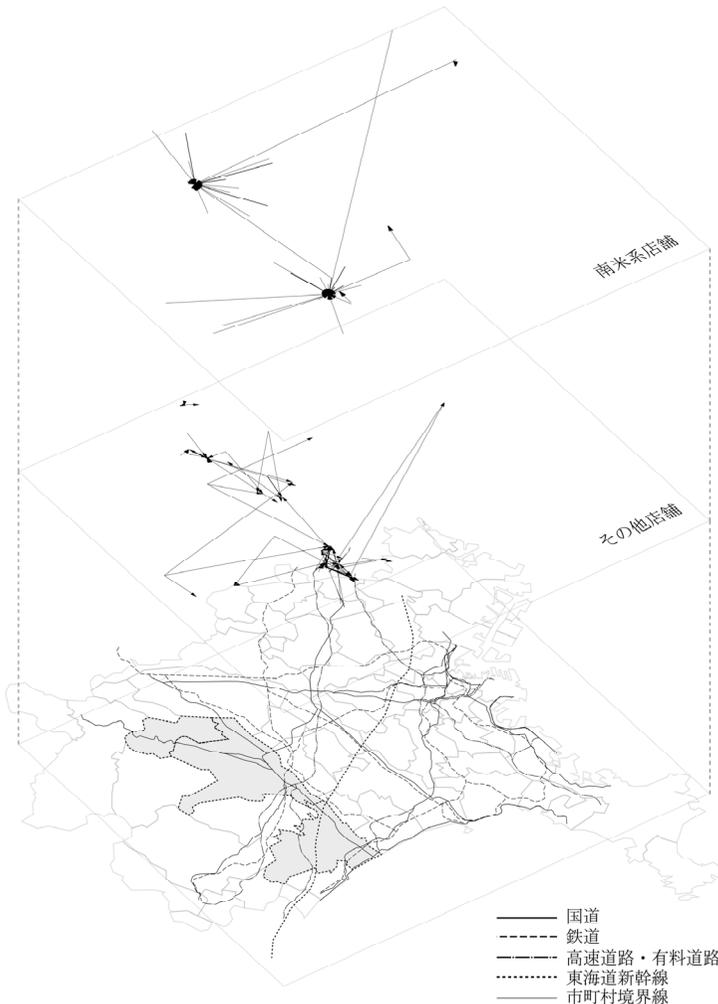


図 4.5 行動分布図 (店舗拠点)

表 4.4 の全店舗に対する ①より、厚木市各地域の LR 度は、小田急本厚木駅から半径 500m 圏内に位置する中町地区 80%、国道 412 号線沿いに位置する林地区 50%、栄町地区 0%、国道 129 号線沿いに位置する下川入地区 100%である。厚木市内の南米系店舗は小田急本厚木駅近くのペルーレストランのみであり、回答結果に南米系店舗はあがらなかった。しかし、緑ヶ丘地区がトラック販売⁸⁾の販売地になっていることから、固定店舗とは異なる居住者の拠点・行動域があると推測できる。

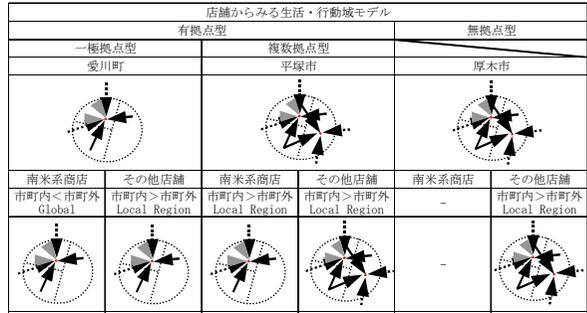


図 4.7 利用店舗から見る居住者の生活・行動圏モデル

iii) 平塚市:『LR 型』

平塚市は、国道 129 号線、及び、一本入った県道沿いにもチェーン展開する日本店舗のロードサイドショップが並ぶ。LR 度については、南米系店舗では、Rio が立地している東中原地区は 68%であり、その他店舗では、四之宮と横内を除いて LR 度の 100%~73%と高い。一方、G 度は LR 度が 0%で 2 地区を除くと 0%~30%前後となっている。平塚市の商店は同一市内の居住者良くが利用している傾向が見られた。

表 4.4 LR 度・G 度

	市町名	地域名	居住地→店舗 ベクトル			①LR度		②G度	
			対象地域→対象地域	同市町・対象地域外→対象地域	対象市町外→対象地域	対象市町→店舗	対象市町外→店舗		
			A	B	C	(A+B)/(A+B+C)*100%	100-(A+B)/(A+B+C)		
I 店舗	愛川町	中津	40	4	29	60.27	39.73		
		角田	2	4	0	100.00	0.00		
		中町	0	4	1	80.00	20.00		
	厚木市	林	0	1	1	50.00	50.00		
		栄町	0	0	1	0.00	100.00		
		下川入	1	0	0	100.00	0.00		
		上依知	0	0	0	-	-		
		下依知	0	0	0	-	-		
		下萩野	0	0	0	-	-		
	平塚市	田村	0	11	4	73.33	26.67		
		東中原	18	27	16	73.77	26.23		
		四之宮	0	0	1	0.00	100.00		
		東真土	0	1	0	100.00	0.00		
		代官町	0	4	1	80.00	20.00		
		横内	0	0	1	0.00	100.00		
		豊田本郷	0	1	0	100.00	0.00		
		東八幡	0	1	0	100.00	0.00		
		宮松町	0	3	0	100.00	0.00		
紅谷町		0	1	0	100.00	0.00			
中原		0	0	0	-	-			
西真土		0	0	0	-	-			
真土	0	0	0	-	-				
豊田平等	0	0	0	-	-				
II 南米系店舗	愛川町	中津	20	2	27	44.90	55.10		
		角田	0	0	0	-	-		
		中町	0	0	0	-	-		
	厚木市	林	0	0	0	-	-		
		栄町	0	0	0	-	-		
		下川入	0	0	0	-	-		
		上依知	0	0	0	-	-		
		下依知	0	0	0	-	-		
		下萩野	0	0	0	-	-		
	平塚市	田村	0	0	0	-	-		
		東中原	10	24	16	68.00	32.00		
		四之宮	0	0	0	-	-		
		東真土	0	0	0	-	-		
		代官町	0	0	0	-	-		
		横内	0	0	0	-	-		
		豊田本郷	0	0	0	-	-		
		東八幡	0	0	0	-	-		
		宮松町	0	0	0	-	-		
紅谷町		0	0	0	-	-			
中原		0	0	0	-	-			
西真土		0	0	0	-	-			
豊田平等	0	0	0	-	-				
III その他店舗	愛川町	中津	20	2	2	91.67	8.33		
		角田	2	4	0	100.00	0.00		
		中町	0	4	1	80.00	20.00		
	厚木市	林	0	1	1	50.00	50.00		
		栄町	0	0	1	0.00	100.00		
		下川入	1	0	0	100.00	0.00		
		上依知	0	0	0	-	-		
		下依知	0	0	0	-	-		
		下萩野	0	0	0	-	-		
	平塚市	田村	0	11	4	73.33	26.67		
		東中原	8	3	0	100.00	0.00		
		四之宮	0	0	1	0.00	100.00		
		東真土	0	1	0	100.00	0.00		
		代官町	0	4	1	80.00	20.00		
		横内	0	0	1	0.00	100.00		
		豊田本郷	0	1	0	100.00	0.00		
		東八幡	0	1	0	100.00	0.00		
		宮松町	0	3	0	100.00	0.00		
紅谷町		0	1	0	100.00	0.00			
中原		0	0	0	-	-			
西真土		0	0	0	-	-			
豊田平等	0	0	0	-	-				

5. まとめ

本稿では、「3. 居住者像に関する考察」、「4.1 休日行動に関する考察」で、対象地域内にある南米系店舗を利用している在日南米人像を示した。

それは、年齢が 30 代半ばで、労働目的で 1990 年~95 年の間に第 1 回目の来日をし、現在は、契約社員またはパートタイムの雇用で、年収が 300 万~400 万円。ただし、男女格差があり、女性は 100 万円~200 万の間が多い。単身者・夫婦世帯、又は、3 人~8 人の家族ですんでいる割合がほぼ同数であり、職場から自転車です 5 分~15 分の距離にある家賃 6 万円~7 万円の民間賃貸住居に住んでいる。休日は、家族や友人と、職場には自転車を通うが、休日は自動車に乗りレストランや行きつけの店舗で過ごす姿で

ある。これらの姿は、2004 年度に群馬県大泉町でのアンケート調査により示したエスニックコミュニティの生活・行動像を補完する結果となった。^{8), 9)}

「4.2 日常行動に関する考察」において、日常の買物行動に対する回答より、2 つの指標を提示して、エスニックコミュニティを含む地域の居住者の行動タイプを分類した。

1)「集中度」・「分散度」:居住者の行動圏域の大きさをはかる指標であり、2)「LR 度」、「G 度」:店舗の集客圏域の大きさをはかる指標である。これら 2 つの側面から、対象地域の考察を行い、エスニックバックグラウンドを持つコミュニティ(例えば南米系店舗を有する地域)において、コミュニティ内の店舗(特に、母国の商品を扱う商店が日常生活の拠点)を利用する傾向(集中度・LG 度共に高割合を持つ)を得た。

今回は、神奈川県県央地域を対象としているが、このような調査はより広域又は多様なエスニックバックグラウンドを持つ人々に対してアンケートを行い、そのデータ比較することが必要である。その為、在日南米人口の多い他地域(静岡県、愛知県等)や他のエスニックバックグラウンドを持つコミュニティに関しても同様の調査を行い、在日外国人の日常行動の基礎データ構築と分析を行う予定である。

注釈:

注1) 在日南米人:南米出身の在日外国人。
今回のアンケートでは、在日ブラジル人・ペルー人が主である。

注2) 南米系商品を扱う店舗:在日ポルトガル人や在日ペルー人を対象とした生活ガイドブック “Guia Japão2005”, International Press¹¹⁾に掲載されている 日用品を扱う店舗のこと。
2004 年度の調査において^{9), 11)}在日外国人にとって、母国の商品を扱う店舗が、そのエスニックコミュニティの核の一つになることがわかっており、その為、アンケートの調査地として適切であると判断した。
対象地域内の上記のガイドブックに掲載されている日用品を扱う5店舗の内、アンケートに協力可能と回答を頂いた3店舗で調査を行った。

注3) 表 2. 3 内の回答数は、アンケートを無記名で行っているため、延べ人数である。

参考文献:

1) Ruth Lupton, Anne Power , ” Minority Ethnic Groups in Britain”, Centre for Analysis of Social Exclusion-Brookings Census Briefs No.2, pp1-4, 2004

- 2) Anne Power , ”Sustainable Communities and Sustainable Development - a review of the sustainable communities plan”, Sustainable Development commission, pp1-36, 1997
- 3) “Copenhagen - Action Plan - Urban Space”, The 6th Biennial of Towns and Town Planning June 2005, 2005
- 4) 渡辺雅子, “共同研究 出稼ぎ日系ブラジル人 上下”, 明石店, 1995
- 5) 駒井洋, “新来・定住外国人資料集成 上下巻” 明石書店, 1998
- 6) 奥田道大他, “東京における外国人居住者の住まいと住環境に関する研究(2)”, 住宅総合研究財団研究年報, no.19, pp.171-182, 1992
- 7) 稲葉佳子他, “東京における外国人居住者の住まいと住環境に関する比較 研究”, 住宅総合研究財団研究年報, no.28, pp.83-94, 2001
- 8) “平成 17 年度版 在留外国人統計”, (財)入管協会, 2005
- 9) 鍛佳代子他, “エスニックバックグラウンドに代表される都市再開発に影響される社会的要因の調査分析”, 2004・2005 年度基盤研究(C)研究成果報告書 No.16560556, 2006
- 10) 秋元清太郎他, “ニューカマーブラジル人生活圏の研究”, 日本建築学会大会論学術講演梗概集, 2005
- 11) “Guia Japão 2005”, International Press, 2005